

### (3) 本質的価値を構成する要素と密接に関わる要素ごとの考え方

#### ① 自然的要素に関わるもの

○構成要素：この地区には、該当する構成要素はない。

#### ② 歴史的要素に関わるもの

##### i 御塩殿神社

○構成要素：建築物、工作物

◇管理者：神宮

##### ●現状と課題

御塩殿神社の境内地には、斎館と呼ばれる社務所のほか、石柱、定札、手水鉢、案内板、門、生垣がある。

##### ◎保存管理の考え方

社務所は、神社の宗教活動を運営する上で必要な建築物として現状維持を原則とするが、今後、施設の新築・増改築等が必要となった場合は、その必要性を十分精査するとともに、名勝としての景観と神社の社頭景観の保護に最大限の配慮を行い整備するものとする。

工作物には、宗教活動を運営する上で必要なため神宮が設置したもの、参拝者から寄進されたものがある。現存するこれらの工作物は原則現状維持に努め、き損した場合には適切に復旧・整備する。新たに設置する場合は、神社の社頭景観を損なうことの無いよう配慮を行い整備する。

#### ③ 社会的要素に関わるもの

##### i 御塩殿神社

○構成要素：工作物

◇管理者：神宮

##### ●現状と課題

打越浜に面して朽ちかけたベンチと神社敷地を取り囲む柵がある。

##### ◎保存管理の考え方

現存する工作物は原則現状維持に努めるものとするが、今後の設置の要不要に応じ、復旧、撤去を判断するものとする。新たに設置する必要がある場合は、神社の社頭景観を損なうことの無いよう配慮を行い整備する。

## 4 音無山地区

### (1) 基本的な考え方

この地区は、二見浦を眺望できる音無山の北側斜面一体であり、名勝二見浦の海浜と一体の風致景観をなす場所として保存管理を行う必要がある。

立石崎へと連なる山並みと多様な広葉樹林が特色であり、この地形と森林の維持に努めるものとする。

また、音無山公園の整備により、市民が気軽に散策できる場所となっているため、園内の施設は適切に維持管理し、新設・更新の場合には周囲の風致景観との調和を図るも

のとする。

## (2) 本質的価値を構成する要素ごとの考え方

### ① 自然的要素

#### i 地形・地質

○構成要素：丘陵

◇管理者：三重県、伊勢市、二見興玉神社

#### ●現状と課題

江川の北部で南北方向に延びる丘陵地で、標高 119.8 m の音無山を最高所とする。尾根の北端は立石崎へと連なり、丘陵地は全て西南日本外帯の三波川変成帯に属している。

#### ◎保存管理の考え方

地形・地質は、植生や動物の生育の基盤となるだけでなく、景観の基礎となり歴史的要素が形成される基盤ともなる重要な要素であるため、自然の状態のまま維持することを基本とする。

土壌・岩石の採取、その他の行為については、学術研究その他公益性があり、周辺環境に影響がないもの以外は原則規制することとする。

#### ii 植生

○構成要素：音無山

◇管理者：三重県、伊勢市、二見興玉神社

#### ●現状と課題

常緑広葉樹を中心に、落葉樹、暖地性植物が分布しているが、一部にキンモクセイ、カリン等の外来樹種も見られる。また、音無山公園内にはサクラが植樹され、名所として知られている。

#### ◎保存管理の考え方

樹林は、現状のまま維持することを基本とし、地域樹種への統一に努める。

音無山公園内のサクラは現状維持に努め、き損した場合には適切に復旧・整備する。

### ② 歴史的要素

○構成要素：この地区には、該当する構成要素はない。

### ③ 社会的要素

#### i 音無山公園

○構成要素：施設

◇管理者：伊勢市

#### ●現状と課題

平成 4 年（1992）から遊歩道が整備され、神前海岸を見下ろす山頂部には初日の出や富士山を望むことができる「日の出の見える展望台」もある。

◎保存管理の考え方

遊歩道、展望台ともに現状維持に努め、き損した場合には適切に復旧・整備する。

(3) 本質的価値を構成する要素と密接に関わる要素ごとの考え方

① 自然的要素に関わるもの

i 危険防止のための工作物（擁壁、砂防堰堤等）

○構成要素：音無山

◇管理者：三重県、伊勢市

●現状と課題

土砂流出・土砂崩壊防備保安林、砂防指定区域に指定されており、各所に擁壁、石積み、砂防堰堤、水路が設置されている。

◎保存管理の考え方

危険防止及び安全管理のための工作物については、規模・形態・色彩・材質等において、名勝の景観との調和を図りつつ適切に維持管理する。

② 歴史的要素に関わるもの

i 音無山

○構成要素：工作物、遺構

◇管理者：伊勢市ほか

●現状と課題

神前海岸を見下ろす山頂部に音成神社や鳥居があり、標高 119.8 m の最高所付近には、東大寺金堂（大仏殿）再建祈願のため重源が総勢 7 百余人と来訪したという天覚寺跡と伊勢三郎義盛の音無山城址が推定されているが、立地場所についてはそれぞれ異説がある。

また、昭和 7 年（1932）に敷設され、太平洋戦争により同 17 年（1942）に供出されたロープウェイ乗場の跡地も遺されている。

◎保存管理の考え方

音成神社については現状の維持に努め、き損した場合には適切に復旧・整備するものとする。

天覚寺跡、音無山城址、ロープウェイ乗場跡地については適切な保存管理を行い、遺構・遺物の保護に努める。

③ 社会的要素に関わるもの

i 音無山公園

○構成要素：建築物、工作物

◇管理者：三重県、伊勢市ほか

●現状と課題

建築物としてトイレ、休憩所、工作物として道路構造物の吊橋、木橋、道路附帯工作物のガードレール、転落防止柵、街路灯、安全確保工作物の石積み、その他、ベンチ、水飲み、車止め、指導標、注意柱、看板、案内板、注意板、解説板、